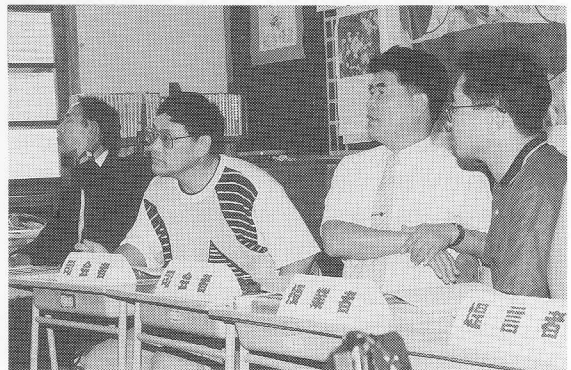


函館大会特集



目次

函館大会を終えて……………2・3
函館大会に参加して……………4・5・6

論点……………7
サクラクレパス・あとがき……………8



北海道
造形教育
連盟報

No.93 1992.12.10発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒065 札幌市東区北46条東13丁目1番地
札幌市立栄東小学校 鹿嶋 健

☎011-753-2670

函館大会を終えて ～素顔で迎えた第42回大会～



函館大会事務局長
函館市立深堀中学校
安井 孝

7月28日・29日、函館市立深堀中学校と函館市立日吉幼稚園を会場に開催されました第42回全道造形教育研究大会函館大会が盛況の中に無事終了しました。

二日間の研究協議に遠く各地からご参加下さいました参加者の皆さんや大会成功のため、運営に力強い支援で、ご協力をいただきました関係の多くの方々に厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

大会運営に当たった一人として、何とか大会を終えることができホッとした気持ちで開催に至るまでの苦労話などを少々述べてみたいと思います。

第42回大会を函館市でという打診があったのは、平成元年の地区委員総会でした。早速、持ち帰って、内部で相談しましたが、特に強い賛成や反対の意見もなく、断る訳にもいかないだろうという消極的な姿勢で受け入れる返事をするようになりました。

過去4回開催の経験から来る余裕もあったのかも知れませんが、私自身も含めて、まだ先のことと軽い気持ちでいたようです。

翌年、この年にご退職される当研究会長だった秋山修世先生が快諾の挨拶を地区委員総会でされ、満場の拍手で正式に決定されました。

「函館らしい立派な大会として皆さんをお待ちしています。」といった自信にあふれた内容だったように記憶しています。同席していた私は内心「とんでもないことになった」という実感で、先生の元気のいいお話を、うらめしい気持ちで聞いていたものです。

大役を引き継がれたのは田邊康夫現研究会長でした。なにせ、中心となるスタッフ一同は7年前に開催された第35回大会以来、ほとんど変わらぬメンバーで、かつての若さや活力はとて無理です。平均年齢も高くなり、盛り上がりが大変心配されました。

大変な時に会長になられたものだと田邊先生には、本当にお気の毒に思ったものです。

さて、決まってしまうと時の過ぎるのは無情に早く、以後、ひたすら日程に追われる身となってしまいました。

準備の中で最も難航したのは会場校をどこにするかという問題でした。

その大会を印象付ける意味で重要なことでした。

函館大会といえば、過去4回のほとんどが、市の観光の中心「異国情緒あふれる街並」、「歴史とロマンの街」のキャッチフレーズで知られる西部地区の学校を会場として開催されてきました。このめぐまれた景観だけでも、多数の参加者を集める魅力があり、満足していただける自信もありました。

しかし、函館市の事情はこの数年に大きく変化しています。交通事情、その他の理由で西部地区は最初から断念しなければなりませんでした。

新たな選択を迫られて、この件は中断したまま、結局、会長と私に預けられる形になりました。

いよいよ大会が間近になって、やむなく覚悟を決め、事務局長の私がいる深堀中学校に決まりました。本校は市内の東部にあり、湯川温泉に近く、学園地区とも呼ばれる落ち着いた住宅街に囲まれた学校です。

中学校としては生徒が落ち着いていて、職員の協力も極めて良く問題はなかったのですが、市内に未だに残る老朽化した木造校舎の一つでした。

お願いする際に、校長先生から「本当に、ここでいいのですか？」と念を押される場面もありました。

他地区の会場に比べたら、あまりに「ひどい」と強い反対がなかったわけでもありません。

とにかく、会場が決まったことで、皆が描いていた「函館らしい大会」のイメージは大きく変わりました。「見掛けを気にせずには有るがままの姿で行こう」今大会の性格がこの時にはっきりと定まったような気がします。

大会構想ができ、各部が走り出したのもこの頃からです。

中でも部長の越田喜忠先生を中心に研究部の精力的な活動が開始され、研究主題、研究や授業の視点、授業者と提言者などが次々と決定されて行きました。人材の厚さを見直したものです。

公開保育をお願いしていた日吉幼稚園には、後になって会場まで使用させていただくことになり、園をあげてのご協力に本当に助けられました。

又、助言者、司会者、提言者などを無理にお願いしたにもかかわらず、快くお引き受けいただき、各部会を盛り上げて下さいました函館市幼稚園協会、高等学校文化連盟、渡島美術教育研究会、松山造形研究会そ

して連盟を通して各地からお手伝いをいただいた先生方には、大へんお世話になりました。

短期決戦でしたが、こうした皆さんのバックアップのお蔭で態勢が整ったのだと思っています。

会場の受入準備は全て会場校にお願いしました。カーテンの補修、床のワックスがけ、机・椅子の移動、会場設営、校舎周辺の環境整備まで職員、父母、生徒による学校ぐるみの応援があったことも忘れられません。

大会当日、開会式後に爽やかな演奏で参加者を迎えてくれた合唱部や吹奏楽部の子どもたちに、皆さんから暖かい拍手が起こった時、とてもうれしく感じたものです。

最初から心配された開催地の会員の結束や盛り上がりは前回以上に鈍く、戦力の大半が研究部に向けられたこともあって、準備に人が集まらず苦労する場面もありましたが、手不足はOB・OG会員のお手伝いがあったり、終盤になっての盛り上がりで何とか乗り越えることができました。いざとなると底力をみせる当会の特徴は今回も確かに生きていました。

前日までははっきりしなかった天候も当日には快晴となり、研究紀要や昼食の不足を心配するいつもの函館大会の風景が見られる中で、二日間の日程が予定通り進められ、大会は無事終了しました。

35回大会後、たまたま幹事長交代の機を失い柄にもなく大役を引き受けることになってから、この重圧は以後、私の一部分としてのしかかったまま、この原稿の余白がうまるまで続くことになりました。

こんな役目も、残り数行の文章を書き終わると完了しそうなところまで来てしまいました。思えば本当に長く感じられた数年でした。

今大会が終了し、二日間の研究の成果は大会集録として間もなく各地区の皆さんにお届けできると思いますが、内容の善し悪しは別にして、終わった解放感や充実感は今、会員全体に広がっているものと思います。

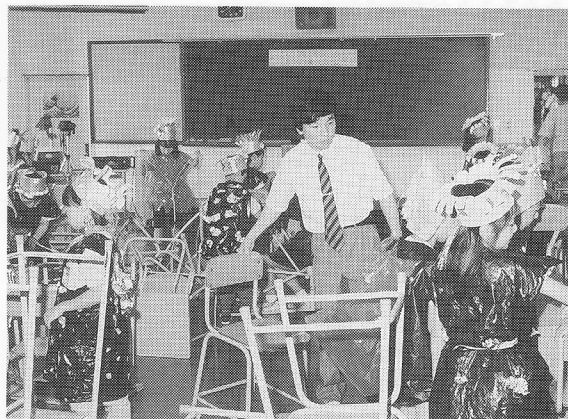
特別なことは何もなく、普段のままの研究実践を中心とした大会でしたが、参加された皆さんの印象はいかがでしたでしょうか。

今大会に多数参加していただいた旭川市の皆さん、次期、旭川大会、本当にご苦労さます。

大会のご成功を心からお祈りしております。



歓迎セレモニー会場校合唱部



造形あそび 小3「みんなのうちゅうせん」



彫刻 中1「風をイメージしてつくろう」

函館大会を終えて



函館市立日吉幼稚園長
岩井悦子

幼稚園部会の会場園として、4歳児、5歳児の2クラスの保育を公開させていただきました。実践に当っては、本園の重点教育目標である「いきいきと活動する子」の充実をめざして、創造的に教育活動を進めていくことが、分科会テーマである「よるこんで表現する子」の育成にもつながるとの視点に立ち、取り組んでまいりました。当日は、豊かな素材に触れながらモールやネックレスなどを工夫して作ったり、大型積み木の船に乗り、完成の喜びを教師と共に味わう幼児の姿をみることができました。

大勢の参加者に躊躇することなく、生き生きした活

動や育ち合う変容の姿をみるることができたことは、大きな収穫であったと考えております。

午後からの分科会においても、日常の実践をもとにとぎれることなく討議が繰り広げられました。特に、素材との出会いは、幼児の豊かな発想を引き出し活動の展開に大きな影響を及ぼすことから、幼稚園生活の中では、幼児が様々な素材と出会えるようにすることや、素材と十分に触れ合い、親しんでいく過程を大切にすることなどが話し合われました。

主体性のある幼児を育てるためには、教師みずからが主体的に学ぶことが重要だと言われておりますが、二日間、一人一人の幼児の成長、発達を願って自己を高めていらっしゃる先生方に、心温まる思いがいたしました。大きな大会の中で、多くの方々のご配慮があったことに感謝しつつ、感想といたします。

あたたかい子ども同志の 交流に好感を持ちました



札幌市立幌西小学校
桜田豊

授業が始まると子ども達は、前時までに作った宇宙服を来て、机や椅子を使って宇宙船の骨ぐみをさっと作り上げました。そして、自分達で集めた空き容器等で宇宙船の部品を作る活動に進んでいきました。

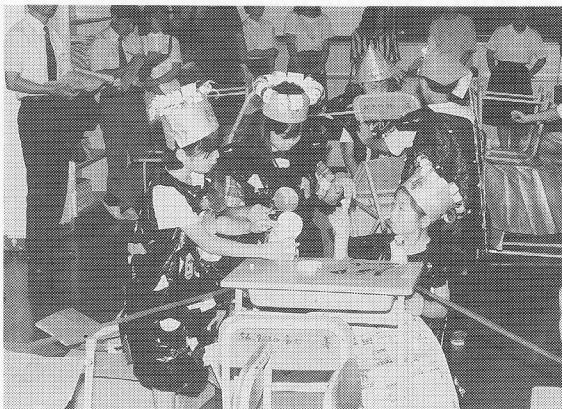
この活動の中で、私の前にいた男の子がとても印象に残っています。

その男の子は、宇宙船の運転席にすわり、ダンボールをじっと見つめていました。その時間は、けっこう

長かったように思います。そして、意を決したように、油性ペンを持ち、箱の中に絵をかき始めました。「ここに星があって…」等とつぶやきながらかいているところに、女の子が近づいてきて、箱の中をのぞきこみました。「あとで見せて上げるよ」「うん」……

作品交流の時間に、男の子は、運転席の前に箱を置き、夢中で運転していました。その後ろには、ちゃんとさっきの女の子がいて、ニコニコしながら箱の中の宇宙の様子を見ていました。そして「どうもありがとう。おもしろかったよ。」とあいさつをすると、男の子は、とても満足そうに「バイバイ」と言って、また運転のしぐさをしていました。

このようなあたたかい人間関係に支えられて、より一層造形する喜びが高まっていくと思います。





函館大会に参加して

— 高校分科会を中心に —

札幌北高等学校工芸科教諭
土岐 禎次

私もこの連盟にお世話になって38年、今年度退職最後の年でもあるので何とか皆様方と勉強させて頂きたく函館に向かった。毎年のことながら連盟の研究会に参加して大きく印象に残るものの一つに目を輝かせて制作に励む幼小中生の公開授業がある。幼児期から中学迄如何に子供の豊かな感性を大切に伸ばそうと努力を重ねているのか、その教材は、指導内容は……、そして我々はこんな素晴らしい教育を受けてきた大切な生徒をどの様に引き継がなければならないのか？ 高校からの参加者が少ないことが残念でならない。

高校分科会は初日函館中部高校福田好平先生の研究発表で、抽象立体を紙やバルサ材で制作して、生徒個々の感性で“如何に空間を演出するか”がテーマ。多くの実践作品と授業で配布された密度の高い膨大な資料を前に熱心に展開された。特に最近の生徒は自分の手や頭を使っての手作業は不得意・没个性的といわれている中で幅広い存在感のある実践作品には参加者一同

発表者い多大の敬意を表した。いずれの授業も同じであるが、先生は導入の大切さとして、制作のキッカケを如何に作るか。雰囲気をもり上げ、如何にやる気を起こさせるか。制作の場・環境をどの様にして作るか等々。生徒の感性を引き出し、その良さを見い出せる所謂教えることから育てる教育。そして高校生とても先生や周囲の者の評価を非常に気にしているのでこれも大切にしなければならないと付け加えられた。

二日目の分科会では参加者全員が持ち寄った絵画・立体・デッサンの作品について発表のあと、各学校の現状、特に高校では平成6年度より新カリキュラムで授業が展開されるが、今高校での芸術教科は大変深刻な問題に直面している。受験科目中心の学力向上対策。生徒減による教師の定員問題、特に小規模校での芸術教科教員がいなくなる。月二回を前提としての土曜休日にとまなう教科単位数の削減。家庭科男女共習によるしわ寄せ等々である。この様な問題について各学校の実状を話し合い、やや時間的に不足はあったものの、こんな時代こそ学校教育の基本や芸術教育の重要性をアピールし、又各界のご助力を仰がなければならないのではないかとの一応の結論を出して有意義な分科会を閉じた。



造形大会に参加する楽しさ

旭川市立東五条小学校
飯塚 礼二

大会を開く側にはご苦労も多いわけですが、参加する側にはいくつかの期待や楽しみがあります。そのいくつかをあげてみます。

そのひとつは、子どもたちの姿をみることです。

各地で、どんな造形活動をくり広げ、子どもたちを育てているのか、授業を通し、作品を通してその姿にふれることです。

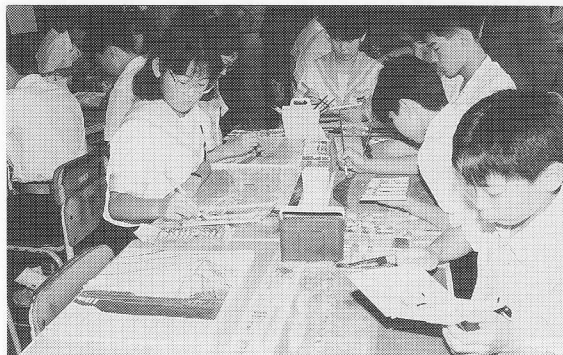
ふたつめは、仲間との交流です。

全道各地から年に一度集まる先生方と交流できることです。大会にはいつもなくてはならない顔の先生、な

つかしい先生方と話し合える場があることです。また、各地のすばらしい実践や、熱のこもった発表・作品にふれることができたり、同じ問題をもつ仲間が、解決の糸口や方向をさぐり合う場があることです。今年は指導要領が変わって、いくつかの課題も残されましたが、それをきっかけにまた来年が楽しみになります。もうひとつは、旅の楽しさです。

その街だから味わえる旅の楽しさがあります。今年の函館には特に多かったようです。夜景・街並み、温泉、そして味どころ。新しい素材に出会った子どもたちのように短い時間を意欲的に活動することができました。

43回大会は旭川です。わたしたち旭川も準備を進めています。多数ご参加下さい。





函館大会に参加して

釧路市立桜が丘中学校
奥田 泰朗

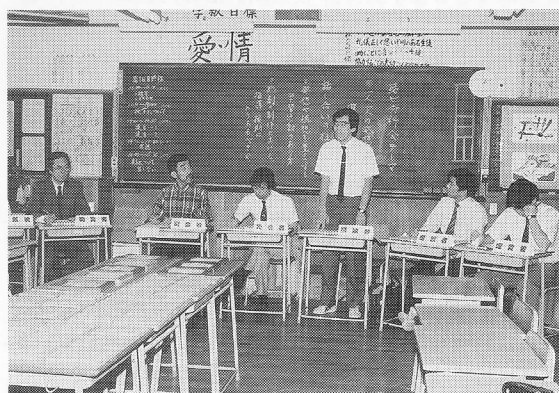
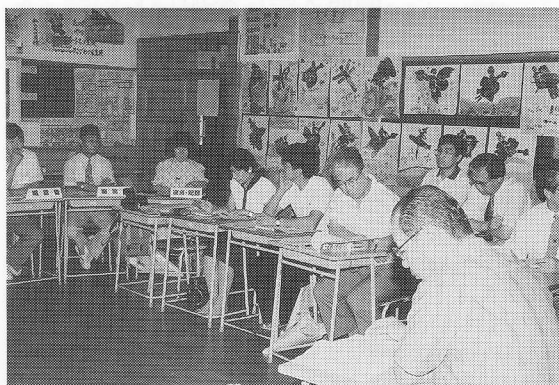
第42回全道造形教育研究大会函館大会の成功おめでとうございます。釧路からの参加ということで、たいへんハードな旅でしたが、それを差し引いても、実りある研究大会でありました。

公開授業で印象に残ったのは、小学校では「みんなのうちゅうせん」、中学校では「立体観のある平面構成」です。もしかして、この2つの題材はつながっていくのかも知れません。

「みんなのうちゅうせん」では、子どもたちの嬉しそうな顔はもちろん、教師の汗、あるいは協力体制まで感じられました。すばらしかったです。きっとあの子どもたちは家に帰っても、楽しそうに親に報告したのではないのでしょうか。

「立体感のある平面構成」は中学生らしく落ち着いた雰囲気の中で、真剣に目標達成に向かって進んでいる姿が目につきました。

2年後の釧路大会もよろしくお願いいたします。



函館大会

中学部会に参加して

札幌市立柏中学校
多田 紘一

中学校の授業は、1年生の彫刻分野として「風をイメージして作ろう」。2年生の絵画分野で「研修旅行スケッチ」。同じ2年生のデザイン分野「立体感のある平面構成」の3つが公開された。

新教材の開発に取り組みされた水口司先生の「風をイメージして……」を主に参観させて頂いた。これは、発泡スチロールの箱を利用して、いろいろな形に切り抜いたものを、他の糸や針金などの材料とも継いだり、貼り合わせたりして、「風」のイメージを作り上げていく造形学習であった。

参観した先生方の関心は、材料の特性と用具と技法との関連や題材の設定と生徒の発想や関心・意欲とのかわりなどに向けられていたように思われた。

新しい学力観を意識して、個性を大切にし意欲的に造形活動に取り組む生徒の育成をはかろうと、先生方の工夫している姿勢を感じることができたように思う。

基礎・基本のおさえ方や評価、評定の方法など、これから更に取り組みねばならないと感じて帰ってきた。



豊かにいきることと造形教育のかかわり



札幌市立三角山小学校
菅原清貴

どこへ行く…足元から崩れていくような恐怖がある。ある生物学者によると宇宙で生命が発生する確率は天文学的数字を並べた程だという。その貴重な宇宙の宝石が滅亡へ一里塚を突き進んでいるかのようだ。それも最も進化した生物の手によってである。物質文明の進歩程に精神文化が成熟していないのであろうか。一見高尚なイデオロギーの対立から世俗的な経済・民族対立へとベクトルが方向を変えた。しかし、『対立』という欲望の矢印は変わっていない。どこへ行くのだ…人間は。豊に暮らしたいと願うのは、だれもが求めることである。今、その『豊かさ』が問われている。

さて、どうする…私のような無力な小市民が、こんな大命題をとにかく論ずるのは陳腐だとは思ふ。しかし、足元の小課題に目を奪われているうちに対岸の火が全身を覆い尽くしては一層陳腐だろう。『豊かに生きる』ことの中身を真剣に考える時である。そこから造形教育の価値を探ることが大切に思えてならない。

豊かに生きるための造形教育…ゼロから産みだし創造することは、それだけでも前向きな行為だ。つくことは豊かさに直結しているのだ。

- ・暖かな心が…人に、物に想いをよせてつくる行為を通して、手のひらに温もりある人間を生む。
- ・ひたむきな前向きの姿勢が…つくる行為を通して意欲に満ちた輝きのある目を生む。

心・目・手が高揚する行為が造形活動であり、そのためには高額な資金は必要としない。ただ、平和と思ひやりがあればいい。創造的な造形活動を通して、四季を織り成す淡い色調の中で歴史を刻んできた大和人の繊細な感覚を復興し、21世紀を豊にいきる地球人としての資質を子どもたちに伝えたい。そのために、教師が成すべき課題は、何であるのかを急いで考える必要がある。(写真は、

山から抱えてきた石を顔にしたもので子どもの想いがずっしりと重い：6年5～6kg)



これからの美術教育



札幌市立北栄中学校
村谷利一

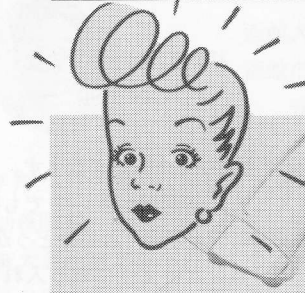
中学校の教育課程が来年度より完全実施されます。これからの美術教育を考える時、諸問題が多い中でも特に2年生の時間数が上限の2時間を確保できるかどうか、又美術科として新しい学力観をどのように取り入れていくべきかが今後の美術教育を大きく左右する問題であると思います。従って、我々美術の教師は何をなすべきか、全道各地で活躍されている美術の先生方と共に考え、行動して行く事が必要と思っております。「2年生の美術は2時間必要である」と言うだけでは、学校の中でさえ、他教科の先生や父母の理解を得る事は難しいでしょう。学校教育の中で美術の果たす役割を各学校が実践によって示す事が必要です。紙面の関係でくわしく述べる事は出来ませんが、今日的学校教育の課題に美術科が積極的にかかわりを持ち、我々美術教師の信頼と発言力を強化する事が必要です。

平均化された画一的な教育から個性化の教育へ、知識優先から発想優先へ、結果重視から過程重視へと教育の方向は大きく変わろうとしております。従来の指導をマンネリ的にくり返しては変化する社会の流れから大きく取り残されてしまう事でしょう。

札幌市の中学校部会では、先輩諸氏の力を借りて、何度かこの問題について学習する機会を持ってきました。全道の各地区でも連盟の支部や美術研究部会が中心となって教科としての論理的裏付けを学習している事と思ひます。その成果を連盟の全道大会等で交流するのも意義がある事と考えます。昨年札幌大会では中学校全体分科会で札幌がこの問題を提起致しました。時間不足もあり深く全道の先生方と話し合う事は出来ませんでした。我々としては大変意義のある分科会であったと評価しております。これからも全道大会ではこの問題を取りあげ、継続して成果を積み重ねていく事が必要と思ひます。全道の美術の先生方が一同に会して話し合う場としては、連盟の全道大会が一番適しているように思ひます。今後全道大会を主催する地区ではぜひ中学校全体分科会でこの問題を継続して取り上げ、美術科の諸問題や時間数確保について学習出来ることを願っております。

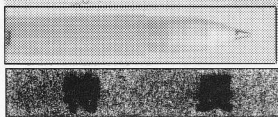
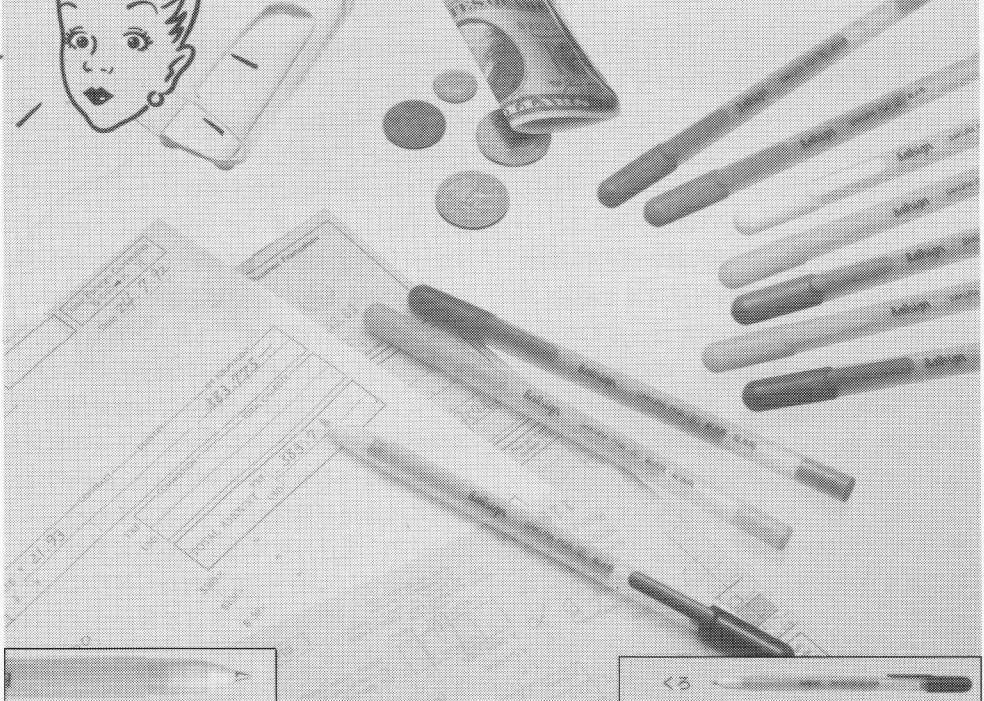
水性・顔料・ゲルインキペン

サクラ ボールサイン80 全10色

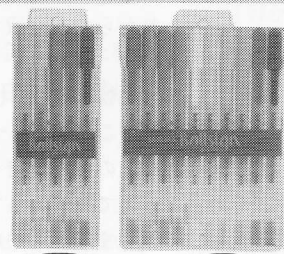


ボールペン革命

1本 **80** (税別) 円

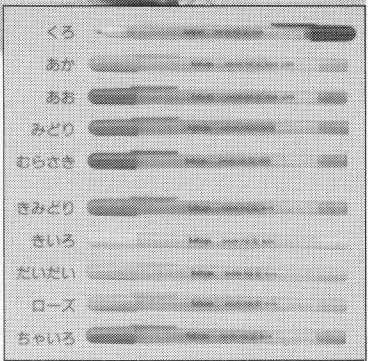


- 水・薬品・光に強く、変色なし
- インキ残量のわかる透明ボディ
- レフィル交換でインキ補充OK (黒・赤・青)
- なめらかな書き味
- ボタ落ちなく、色・鮮やか
- 強いペン先、カーボン複写OK



5色セット
(くろ、あか、あお、みどり、ローズ)
¥500(税別)

10色セット
(全色)
¥1,000(税別)



株式会社 サクラクレパス

第19回北海道教育美術展 締切せまる 12月16日まで
 教室から生まれたふだん着の作品を！
 送付先 〒060 札幌市中央区宮の森4条11丁目 札幌市立三角山小学校

あとがき 心暖まる函館大会の余韻が残る中に暮れを迎えました。指導の構築の原点にもどって考えることが新しい出発となるという声も聞えてきます。どうぞよい年をお迎え下さい。
 稲實 順 (八軒西小) 大場章子 (山鼻小) 島 昇二 (札幌中) 高橋歳仁 (厚別中) 毛馬内國夫 (桑園小)